【タイトル】平成２１年度「税を考える週間」会員大会・講演会
【委員会名】研修委員会

【日時】平成２１年１１月１０日(火)　PM４：００～５：００
【場所】亀戸天神社　参集殿

【演題】「税務雑感」
【講師】市原江東東税務署長

【内容】会員１１６名が参加して開催された。
　最近の新聞紙上での税情報、国税組織の機構、職場体験を通しての**税務雑感、作家司馬遼太郎氏の文章の書き方や小説「坂の上の雲」について興味深いお話をされた。**

　とりわけ印象深かったのは、市原署長が税務大学校での新人税務職員の研修カリキュラム作成の仕事に携わった時に、その作成にあたって、海軍兵学校の教育をヒントにしたことである。
　当時の海軍兵学校長であった井上成美氏（後に海軍大将）が、敵国語の英語を海軍兵学校で授業に採用していることに批判がある中で、海軍士官は軍人であると同時に良き社会人であり、豊かな教養人、国際人でなければならないとする理由で、この批判を突っぱねたとの逸話がある。
　これをヒントに、**税務大学校の研修は、**社会人としての常識、公務員としての自覚、税務職員としての使命感を基本理念とし、そのため必ずしも**税法の研**

修ばかりではなく、一般教養や体育などにも力を注いだものとなっており、今も引き継がれているという。

　また、市原署長はかって東京国税局で会議資料を作成する仕事に携わり、文章を書く作業と格闘していたという。そんな折、読書家の上司が文章の上達法は、司馬遼太郎氏の「坂の上の雲」を読むと良いと勧めてくれた。
　ちなみに、**司馬氏は文章を書くうえで心がけていることの問いに「センテンスは荷車のようなもの。一台の荷車には一個だけ荷物を積むようにしなさい。」とする回答をしている。**

　そのほか小説「坂の上の雲」での、バルチック艦隊発見にから大本営までの通報劇（宮古島の漁夫５人の石垣島までの１７０㎞におよぶ不眠不休の通報）や司馬氏が小学校教科書用に書き下ろした「二十一世紀に生きる君たちへ」などを紹介して講演を結んだ。

司馬遼太郎氏と小説「坂の上の雲」の話題に、に魅せられる